

平成17年度岩手県工業技術研究推進会議 議 事 録		(実施日) 平成17年10月20日(木)
(テーマ名) 県産清酒の品質向上に関する研究 (事後評価)		
委員	質 問・意 見	回 答
H委員	開発した低アルコール清酒を飲んでみたかった。クエン酸を選択したのは、なぜか。クエン酸に限らず有機酸が入るとマイルドになる。	【上席専研】 市販酒の官能評価を行い、女性に最も好まれるのはクエン酸を多く含む酒であった。
	評価したのは誰か。横向慶子氏、早川和良氏というような商品開発に実績がある人がいる。このような人を招へいして商品開発を行ってほしい。	【発表者】 何度も官能評価を行ったため、評価基準が一定で、かつ率直な意見を聞けるよう、センターの女性職員により評価を行った。 【事後補足】 著名人の招へいはブランド推進課等で検討してほしい。
	官能評価を比較評価ではなく絶対評価で行うよう、官能評価システムを確立してほしい。	【所長】 絶対評価の方法について教えてほしい。
	現在、学生 小学生 高齢者 の3つの官能評価システムを構築すべく研究を進めている。	【事後補足】 研究成果に期待する。
B委員	アルコール度数はいくらか？	【発表者】 5%である。
G委員	低アルコール清酒は従来の清酒の飲み方はできない。発泡酒かワインのような飲み方になる。	
I委員	ワインのように酸味のある清酒をつくったことがある。一般的に低アルコール清酒とはアルコール濃度11～12%程度だが、5%程度でも、発泡性があれば飲み応えがあると思われる。	
	低アルコール清酒は女性向けとは限らず、高齢者や清酒に馴染みのない人に合うと思う。	
H委員	岩手県の食品産業生産高と農産物生産高は、どのくらいか。	
	全国平均からみれば、農産物生産高の9倍まで食品産業生産高を上げることが可能なので、行政主導で食品産業をもっと振興してほしい。	
A委員	センターで低アルコール清酒の製法を完成させてから、企業への普及を考えているようだが、完成する前から企業と連携すべきである。	【醸造技術部長】 当センターで製造法のアウトラインを示し、企業で創意工夫を加え特徴ある商品を作ってもらいたい。
F委員	研究委託先は、研究結果に満足しているのか？	【醸造技術部長】 各酒造メーカーとセンターは信頼関係がある。満足しているから良い関係が保たれていると思われる。
I委員	センターと酒造業界との関係は、他の業界より親密と思われる。技術的な相談等他には打ち明けられないこともある。低アルコール清酒は技術的にはできて市場性はどうかかわからないので商品化検討はこれからということになるが、「吟ぎんが」清酒関連では大いに役立っている。	